

り、又。は。ら。を。す。ゑ。か。ぬ。る。と。も。い。へ。り。後拾遺集に、

風はたゞ思はぬ方に吹しかどわたのはらたつ波はなかりきはらのゐるといふ詞も立といふより、居と對したるなり、種が島にはらかくといひ、對馬にて藏がたつといふ、俗に暴怒をむくろばらをとつるといへり、むくろごめに腹だつなり、腹立て下唇をくはへ居るをしらやまむくばといふ、

〔江談抄三雜事〕源道濟號船路君事

源道濟爲藏人之時、號藤原賴貞、荒武藏、是也、稱船路君云々、此人不腹立之時、甚以優也、而性甚惡人也、仍不可向之、船路者、天氣和順之日、甚以優也、風波惡之時、人不可堪之、故稱船路君、

〔倭訓栞前編四十五〕おこる。○中。口語に人の腹だつをおこるといふ、發起の意也、

〔書言字考節用集八言辭〕敦イキマキ圍マキ俗云立腹、師發憤、怒同最同文同選同最同音同備同、恚同、嗔同、慍同、

〔倭訓栞中編二〕いきまき。徒然草に見ゆ、腹立怒る意にいへり、息を卷也、くり反き也、源氏に見ゆ、

或は慍をよめり、十訓抄にいきまへといふも、同じきにや、

〔十訓抄九〕輔親も居集れる人々も、あさましと思て、此男の貌をみれば、脇かひとりて、いきまへひ

さまづきたり、

〔類聚名義抄六〕淹ヒサシキイカリ恚ヒサシキイカリ、滯ヒサシキイカリ、怒ヒサシキイカリ、

〔伊呂波字類抄不字〕忿フシ怒シ、同同、嗔フシ、怒シ、

〔書言字考節用集八言辭〕滯タイ怒ド指南久久怒不解日、〔同九言辭〕忿フシ怒シ、嗔フシ、怒シ、

〔倭訓栞後編八〕しんゐ。嗔恚の音也、俗にしんゐをもやすなどいへり、大莊嚴論に、身如乾薪、嗔恚

如火未能燒、他光自焦身と見えたり、

〔謠曲〕葵上